茅ヶ崎市立萩園中学校

研究テーマ：学びの質を高める授業づくり

～各教科、各学級における目指す生徒像を見据えて～

１、実践の目的

本校では平成 28 年度より「学びの質を高める」ことを研究テーマに取り入れてきた。「学びの質を高める」とは、生徒が主体的、協働的に課題解決をする学習を通して、資質・能力を身に付けていくことであると位置づけ、研究を重ねてきた。細かい部分は変更をしてきたが、「学びの質を高める」ことを目指しているのは現在も変わらない。４年前にテーマに「学級」という単語を追加した。それは、質の高い授業を行う上で、質の高い学級集団の形成が不可欠だと結論付けたからに他ならない。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためには授業だけではなく、日常生活における学級経営や行事などにおける指導も充実させる必要があると感じたからだ。日常の充実感が、学びへの意欲へとつながり、学力向上にも大いにつながると信じている。そのため「型」にこだわるのではなく、職員一人ひとりが掲げる「質の高い授業づくり」を目指している。そして、一人ひとりの負担感を可能な限り軽減するために、前例踏襲的な「型」を捨て、必要最小限で取り組みを行うこととした。

２、実践の内容

（１）～SMG～

-Strategy Meeting of Grade-

ＳＭＧとは、学級開きや体育祭・合唱コンクールなどの学級経営に影響の大きい行事などの前に、職員同士で学級での取組について共有し、より良い学級経営にしていくために話し合いを行う場である。職員同士で主体的に学級経営について考えるきっかけをつくり、学ぶ取組である。

具体的には、年度初めにＳＭＧを行う際には「今年度の学級経営の計画」というテーマについてグループで考えを持ち寄り、学級開きでは何を語り、今後どのように取り組む予定かを共有する。同じ学年だけではなく、他学年の職員も含めて話し合いをすることは、学級経営の方法を学ぶと同時に、学年の方針を聴くことができ、学びのある時間である。設定された時間内では話し足りないことも多々あるが、職員室では学級経営に関する会話が増え、職員室の雰囲気づくりにもつながっていると考えられる。

（２）～ＳＭＪ～

-Strategy Meeting of Jugyou-

ＳＭＪとは、授業研究会の授業案をグループで練り直すための話し合いの場である。授業研究会の一週間前を目安に行われる。この話し合いは指導案の検討をする訳ではない。話し合いを通して、授業者の悩みや授業のねらいをグループで聞き、教科に関係なくアドバイスをする。異なる教科だからこそ、新しい視点や手法が得られることも多くある。この取組により、授業者だけでは

なく、グループ全員が真剣に授業と向き合える。また、話し合ったことを自分の授業に取り入れられることができ、教員一人ひとりが自分自身の授業改善に努められる。

（３）～授業 Day～

全職員に授業を公開する期間を設定し、授業改善に取り組んでいる。授業Ｄａｙが実施される期間は、5～6 月・9～10 月・1～2 月に３週間設定をしている。

参観時のポイントとして、授業参観者は新たにコメント用紙を用意しないこととしている。また、授業参観終了後にはそのメモ欄を元に授業について情報交換を授業者と参観者でおこない、授業者の指導力向上に努めている。この取組は、授業者と参観者共に新しい発見があった。

（４）～聴き方・話し方の
ステップシート～

上に載せた「聴き方・話し方ステップシート」では、聴き方と話し方を、それぞれ６つの段階に分けている。話や意見を聴き、自身で咀嚼し、話すことで考えをまとめたり発展させたりすること、そして、その話を聴き、それを繰り返すことで次第に意見が円熟していくことが目標である。

３、実践の成果

令和２年度から SMG が始まり、学級経営を１人ではなく複数人で考えていくようになった。年度初めや各行事前に行うことで、さまざまな考えをクラスに活用することができた。また、令和３年度からは SMJ も始まり、校内研究前に授業づくりの悩みを職員全員で解決できるようになった。この他にも、年に３回行われている授業 Day 期間は、互いの授業を見合い、改善を図ってきた。SMG と SMJ においては、最大でも 30 分、授業 Day の参観はポイントとなる時間のみでも可能とすることで、仕事の負担軽減もされている。

令和３年度の学校評価アンケートにおいても、『学級内は話しやすく協力的で、安心して生活できる』という設問の回答で『よくあてはまる』と『あてはまる』の合計が８７％と、９割近い達成率であった。各学年の結果も８割を超え、学級内が居心地の良い、安心できる場所となっている生徒が多いことが分かった。『授業中は、活動に集中して取り組んでいる』という設問の回答においても、『よくあてはまる』と『あてはまる』の合計が８７％と、ほとんどの生徒が授業に集中して取り組んでいることが分かった。しかし、どちらの設問も『あまりあてはまらない』『あてはまらない』『わからない』と回答した生徒が 13％と少数だがいることが分かった。

４、今後の展開

今後の研究では、どのような生徒も安心して生活できるような学級づくりをするための SMG、活動に集中して取り組める授業づくりのための SMJ を行い、より良い学校づくりをしていきたい。また、部活動の地域以降など、先が見通せない過渡期ではあるが、働き方改革を推進しつつ、研究の質を上げ、充実した研究になるようにしていきたい。そのために、何かをやるには、既存の当たり前を見直していくことも大切である。